

連合兵庫は10月29日、神戸市内で定期大会を開き、第19期の総括とともに第20期の運動方針や2026年度予算案などを審議した。今大会では、財政基盤の見直し、組織拡大、ジェンダー平等の推進、政治活動の再構築など、今後の重点課題が提起された。

冒頭のあいさつで那須会長は、来年1月から中央会費制度に移行することで約700万円の減収が見込まれると説明し、「財政の安定化と人材確保の両立をはかる」と強調。職員採用や定年延長、人材育成プログラムの策定に取り組む考えを示した。また、組織拡大と

安心して働く社会をめざして 財政見直し・組織拡大・平等推進を柱に



拳を上げ結束を示す参加者

10月・11月の自治体選挙結果 推薦候補全員が当選

10～11月に行われた兵庫県内の各自治体選挙において、県本部は当該単組とともに取り組みを進めた結果、推薦候補全員が当選を果たした。

【組織内推薦候補】
神河町長選挙 山名宗悟 無投票当選

豊岡市議会議員選挙 義本みどり 2658票 定数22／1位当選



歴史ある町職連協の歌を齊唱

町職連協は9月27日、播磨町中央公民館で第54回定期総会を開き、12単組33人が参加した。総会冒頭、恒例の兵庫県町村職連の歌を全員で齊唱した後、議長に北村望代議員（播磨町職）を選出し、議事を進行した。

主催者を代表して石田義浩議長（猪名川町職）は「昨年の確定闘争では地域手当が引き下げられた単組もあり、納得できる内容ではなかった。今年は全町職単組で人勧以上の引き上げをめざしたい」と述べた。また、「若手交流集会など楽しめる企画を行ってきた。新年度も繋がりをさらに広げて

が深まつたのは残念。働く者・生活者の立場に立った政策実現のため、信頼関係を再構築したい」と訴えた。報告・議案提案後の質疑では、参加代議員から労使紛争の現状報告や平和運動の強化を求める発言があり、執行部は「安心できる社会は平和があるこそ。方針に掲げた取り組みをしつかり実行していく」と応じた。

10月25日、人権啓発研究会が神戸市で開催され、約300人参加。冒頭、主催者を代表して則定広人ひょうご部落員長を講師に「町職役員が押さえておくべき人勧の課題とポイント」と題した学習会を開き、今年度の人事院勧告について理解を深めた。

10月25日、人権啓発研究会が神戸市で開催され、約300人参加。冒頭、主催者を代表して則定広人ひょうご部落員長を講師に「町職役員が押さえておくべき人勧の課題とポイント」と題した学習会を開き、今年度の人事院勧告について理解を深めた。

午後は分科会・学習会において、多可町職の大西代議員が会計年度任用職員の組織化への取り組みを報告。「会計年度任用職員は増加しており、これらの職員なしには業務は成り立たない。アンケートや説明会などを通じて組合の意義を伝えること

町職連協定期総会

若手交流の広がりや組織化の取り組み報告も

人勧以上の引き上げを

いきたい」と抱負を語った。県本部からは足立育生副委員長（神河町職）が出席し、経過報告は藤本朋也事務局次長（稻美町職）、市町村共済組合報告は本田圭司特別幹事（神河町職）、市町職員互助会報告は北川寿一特別幹事（稻美町職）がそれぞれ行つた。質疑では、多可町職の大西代議員が会計年度任用職員の組織化への取り組みを報告。「会計年度任用職員は増加しており、これらの職員なしには業務は成り立たない。アンケートや説明会などを通じて組合の意義を伝えること

ができた。関心を持つ職員もあり、今後も粘り強く取り組みたい」と述べた。

方針提起では、国広大樹事務局長（佐用町職）が秋の確定交渉に向け、給料表や一時金、通勤手当の引き上げに取り組み、統一交渉に結集して各町の労働条件を底上げするよう呼びかけた。新年度役員体制も提案され、すべての議案が承認された。

総会終了後は、戎剛副委員長を講師に「町職役員が

部落解放研究兵庫県集会

「対話」から築く多文化共生社会

アイヌの視点から多様性を認め合う意義学ぶ

いる」とあいさつを受けた。記念講演は、北原モコツトウナシ北海道大学教授から「多文化共生社会に向けて」と題し、マジョリティには気づきにくいマイノリティの思いをアイヌの視点から提起され、「対話」を

事務局長（佐用町職）が秋の確定交渉に向け、給料表や一時金、通勤手当の引き上げに取り組み、統一交渉に結集して各町の労働条件を底上げするよう呼びかけた。新年度役員体制も提案され、すべての議案が承認された。

新年度役員体制も提案され、すべての議案が承認された。

総会終了後は、戎剛副委員長を講師に「町職役員が

新年度役員体制も提案され、すべての議案が承認された。

新年度役員体制も提案され、すべての議案が承認された。